

TRUE
COLORS
FESTIVAL

超ダイバーシティ芸術祭



誰もが自分の色を

輝かせて生きる世界を

「True Colours Festival Singapore 2018」コンサートのフィナーレの様子 photo 富田了平

込めた思い トゥルーカラーズに

2016年にこのプロジェクトのプロデューサーを委任されたとき、まずネーミングについてのリサーチを始め、とても悩みました。みんなの心に響くとともに世界的に通用するネーミングとは何か？誰からも愛されると同時に障害のある人たちに対する見方を変えるきっかけになるような名前はないだろうか。ちょうどその頃、別々の国で活躍する2人の障害のあるアーティストが、同じような考えを発信しているのを見つけました。障害のある人々はマイノリティであり、本当の自分を隠して生きなければいけない、そう感じていることを知りました。誰もがその人らしさ＝True Colorsをさらけ出し、互いに受け入れ合って生きることができたら、どんなに素敵だろうと思い描きました。そんな願いを込めてこの新たな試みをTrue Colors Festivalと名付けました。多様な可能性と能力のある人々によるパフォーマンスアーツはダイバーシティを考えるうえで最良のきっかけになると感じています。

そこで生まれるエネルギーは感動と興奮で場を満ち、人々の心をひとつにします。観客は変化を感じながらその場を後にし、心がオープンになり、他者を受け入れる力を得ることができます。

フェスティバルの会場からあなたの日常へ。
未来はあなたの心の中で始まるのです。

True Colors Festival
エグゼクティブ・
プロデューサー

オードリー・ペレラ

シンガポールを拠点にインディペンデントのフェスティバル・プロデューサーとして活動。報道ジャーナリストを経て、世界最大規模のワールドミュージックの祭典「World of Music Arts & Dance (WOMAD)」の企画とキュレーションに7年間従事。その後「The Ultimate Tribute Concert, Made in Singapore!」や「Play It Back!」など国際的なポップアイコンによる音楽や、シンガポール独自の音楽とダンスの伝統を推し進めるようなフェスティバルを作り上げた。2016年、障害のあるアーティストたちの芸術祭「True Colours Festival Singapore 2018」(日本財団)のフェスティバル・ディレクターに就任。



TRUE COLORS FESTIVAL

超ダイバーシティ芸術祭

True Colors Festivalは、パフォーマンスアーツを通じて、障害・性・世代・言語・国籍など、個性豊かな人たちと一緒に楽しむ芸術祭です。



2019.9

True Colors DANCE
~No Limits~
@ 東京・渋谷区



2019.10

True Colors BEATS
~Uncountable Beats Festival~
@ 東京・港区



2020.1

True Colors JAZZ
~異才 meets セカイ~
Directed by Takashi Matsunaga
@ 大阪 / 東京・目黒区 / 熊本



2020.2

True Colors MUSICAL
ファミリー
「ホンク! ~みにくいアヒルの子~」
@ 東京・豊島区



2021.4

True Colors DIALOGUE
マリアン・ダイビング・リフレックス /
ダレン・オドネル
「私がこれまでに体験したセックスのすべて」
@ 東京・港区



2021.4

True Colors CIRCUS
SLOW CIRCUS PROJECT
「T∞KY∞(トーキョー) ~虫のいい話~」
@ 東京・豊島区 / オンライン



2020.6~

Music Video1. Stand By Me
@ オンライン



2021.3/5~

True Colors FASHION
~Documentary / Fashion Show~
@ オンライン



2020.12/2021.12

TRUE COLORS FILM
FESTIVAL
@ オンライン



2021.6~

Music Video2. You Gotta Be
@ オンライン



2022.4~

True Colors CARAVAN
@ 全国各地

パフォーマンス・イベント(予定)
2022.秋 @ 東京

True Colors CONCERT
2022.11 @ 東京・江東区

全プログラムは、True Colors Festival
公式サイトでご覧いただけます。

photo
富田了平 / MUSICAL, DIALOGUE, CIRCUS
佐竹邦彦 / BEATS 井上嘉和 / JAZZ
LILY SHU / FASHION 安彦幸枝 / CARAVAN

海外での活動

障害者国際芸術祭
2006.11 @ ラオス・ベトナム

障害者国際芸術祭
2008.02 @ カンボジア

障害者国際芸術祭
2013.10 @ ミャンマー

ASEAN 障害者芸術祭
2014.12 @ ミャンマー

障害者太鼓祭
2017.10 @ タイ

アジア太平洋障害者芸術祭
~ True Colours Festival ~ 2018.3 @ シンガポール

フェスティバルを 取りまく視点

True Colors Festival アンバサダーの乙武洋匡さん。
アドバイザーパネルとして、
それぞれの視点から True Colors Festival を
見守る伊敷政英さんと廣川麻子さん。
多様な背景のある3人に
ダイバーシティ&インクルージョンについて、
アクセシビリティについて、
True Colors Festival をめぐる状況について、
ご自身の体験をふまえ、
それぞれの言葉で語っていただきました。



3者鼎談の様子は、
webでもご覧いただけます。

「True Colors CIRCUS」公開ゲネプロの様子 photo 富田了平

01

ぼくはこの色でもあるし、こっちの色でもある。【乙武洋匡】

いろんな人がいてもいいよ、
違いがあってもいいよと
概念として認めることがダイバーシティ。
その概念から一歩踏み込んで
多様な人が社会参加できるように
現実を変えていくことが
インクルージョンだと考えています。
ここ数年、この言葉をよく耳にするし、
概念としては広がりました。
けれど、いろんな人を社会に取り込んでいく
それがどこまで進んだらうかと感じています。

いろんな会場で車椅子席が設けられて
空間的なバリアは解消されつつあります。
けれど、その先の利用されているシーンについて
しっかりイメージされているかというそうではない。

車椅子の人同士で観劇にいった場合は
いいけれど、健常者と観に行ったときには
並んで座れる設計になっていないんです。
イベントって何を見るかももちろん大事だけれど
誰と見るかも大事なのに。
社会や人が心を閉ざしている問題を
超えていこうとするとエンターテインメントの力が
とても大きいことを実感しています。
だからこそ、イベントの質をあげなくてはいけないし、
誰が見ても楽しいものをつくらなくてはならない。
そうしないと意味が半減してしまいますよね。

この人はこういう人だと色のラベルを貼る。
それがこの世界を息苦しくしている気がします。
ぼくはこの色でもあるし、こっちの色でもある。
そんなあいまいさを許容してくれる社会が
本当に心地よい社会だと思います。

作家・タレント
True Colors Festival アンバサダー
乙武 洋匡 (おとたけひろただ)

1976年、東京都出身。先天性四肢欠損により、幼少時より電動車椅子にて生活。大学在学中に著した『五体不満足』が600万部を超すベストセラーに。海外でも翻訳される。大学卒業後はスポーツライターとして活躍した後、小学校教師として教育活動に尽力する。ニュース番組でMCを務めるなど、日本のダイバーシティ分野におけるオピニオンリーダーとして活動している。

True Colors Festival のそれぞれの演目ではアクセシビリティのコンサルティングを行い、**視覚障害者がひとりでもイベント会場にアクセスできるように地図をつくりました。**

アプリのマップだけではとどり着けないんです。

実際に最寄り駅から会場まで歩いて音や匂いなど視覚以外の体感を手がかりに道順を伝える地図を工夫しました。会場に到着してからも、鑑賞体験のサポートや補助犬・車椅子などの受け入れ態勢も考慮しなくてはなりません。**そうした小さな積み重ねがあってはじめてみんなが一緒に楽しむスタートラインに立てるんです。**

こうした普段は見落とされがちな部分に真剣に取り組んでいる True Colors Festival にはすごく可能性を感じています。

ICT（通信技術を活用したコミュニケーション）の登場で視覚障害者の生活は大きく変わりました。それまでは必要な情報を得ようとすると、どうしてもひとの手を借りなくてはならなかったのですが、インターネットの登場

で自分自身の力で自由に欲しい情報が得られるようになりました。

True Colors Festival に込められた思いについて私はこんなふうに捉えています。

多様な人が鑑賞することを意味していると同時に多様な人が関わるイベントであること。

企画の段階から多様な障害当事者の意見が反映されることによってもう一步踏み込んだ意味で開かれたイベントになります。

いっぺんに社会は変えられない。

直接、人の意識も変えることはできない。

でも True Colors Festival のような継続的な取り組みに多くの人に触れることによって、じわじわと世の中は変わっていくと信じています。

True Colors Festival
アドバイザーパネル

伊敷 政英（いしき まさひで）

Cocktailz 代表、アクセシビリティコンサルタント、視覚障害当事者。1977年東京生まれ。先天性の視覚障害で、ロービジョンと全盲を行ったり来たり。今は全盲より。2001年頃よりウェブアクセシビリティに関心を持ち、2003年よりコンサルタントとして企業や自治体・省庁などのウェブサイトにおけるアクセシビリティ改善業務に従事。2010年8月、個人事業として Cocktailz での活動をスタート。ウェブアクセシビリティ分野での仕事を継続しつつ、ロービジョンの子供にも使いやすい・かっこいいノート「KIMINOTE（きみのて）」の企画・制作を行っている。



1 2
4 3

「True Colors DANCE」1. 多国籍からなる障害者ブレイクダンスチーム ILL-Abilities によるワークショップ/ 2,3,4. イベント当日は手話通訳者や字幕を流す大型ビジョン、車椅子利用者や子供連れなどサポートの必要な方に向けたスペースも用意した。 photo 富田了平



03

たくさんの人が混じり合い、それ自体を楽しむ。【廣川麻子】

学生時代に視覚障害者、聴覚障害者、車椅子の友人が集まって活動する機会があったのですがそのときどうしたら一緒に楽しむことができるか一生懸命に考えました。当時の経験が、演劇や文化活動を障害の壁を越えてともに楽しむことを考えるいまの活動につながっています。

それぞれがありのままであること。
ありのままに生きていること。
それがダイバーシティの本質だと思います。
ろう者が音声中心の社会に合わせるために発声の訓練をしなければいけなかったり、聞こえないことで特別な努力を求められたり、そういった状況を改善していかなければいけない。
また、ありのままに社会に参加したいと願うすべての人々を認め、それを実現するための環境づくりを目指すことが、インクルージョンで

あると思います。
アクセシビリティへの配慮はもちろん必要ですが**それが障害者のためのイベントになってはいけません。**
健常者もそうでない人もエンターテインメントの力で集まってたくさんの人が混じり合っている。
そして、そのこと自体を、その様子を楽しむ。
それがすごく大事だと思います。

True Colors Festival は健常者なら健常者だけが集まるイベント、障害者なら障害者だけが集まるイベントという状況を変えてくれました。いろいろな人が集まる場を提供してくれた意味は大きいと思います。
True Colors Festival が始まった頃はこういうイベントは福祉の分野のものであると捉えられていた。
それが今は、みんなが楽しむにはどうしたらいいか、そう考えてくださる方が増えた。
時代の空気の変わり具合をととてもうれしく感じています。

True Colors Festival
アドバイザーパネル

廣川 麻子 (ひろかわ あさこ)

TA-net 理事長、東京大学先端科学技術研究センター熊谷研究室、聴覚障害当事者。2012年に観劇支援団体の特定非営利活動法人シアター・アクセシビリティ・ネットワーク (TA-net) 設立。平成 27 年度芸術選奨文部科学大臣新人賞受賞。2018 年より東京大学先端科学技術研究センター当事者研究分野ユーザーリサーチャーとして観劇支援の研究に取り組む。NHK「手話で楽しむみんなのテレビ」2019 年の立ち上げ時から監修を担当。

1 2 「True Colors MUSICAL」1. 難聴の鹿子澤拳と全盲のサマンサ・バラッソは 2 人で 1 匹の猫を表現。／2. 視覚障害者などを対象に実際の舞台美術などを触ってイメージを膨らませることができるタッチツアーを実施した。／3. 作品をより分かりやすく楽しむための事前解説の様子。／4. 介助者の触手話を読み取りながら鑑賞する盲ろうの観客の姿もあった。 photo 1, 3, 4. 富田了平／2. 西野正将

乙武洋匡 / ryuchell

True Colors Festivalのアンバサダーとして活動を推進する乙武洋匡さんとryuchellさん。お二人に、フェスティバルが織りなす多様な物語にふれて得た気づきや、ダイバーシティとの向き合い方、未来への思いを語っていただきました。



インタビューは、webでもご覧いただけます。

一人ひとりの、その時々“True”を信じて

乙武 True Colors Festivalでは、生のふれあいや場の空気感から気づきを育む場面が多く設けられています。私自身、多種多様な人たちがごちゃまぜになって舞台上輝く姿にとても新鮮な刺激を受けていて。そこには自分が思ってきたダイバーシティの構図よりも、立体的で魅力的なあり方が描かれていたんです。

ryuchell 僕はこのプロジェクトでコラボTシャツを作ったときに、みんなそれぞれの色を認めよう、というメッセージを込めました。白でも黒でもカラフルでも、あなただけのいろんな色があっていいんだよって。誰もが自分の色を取り戻していく。見つけてもいいと思います。決めつけず、直感を信じて、その時の自分を感じる事が大切だと思っています。

乙武 ryuchellのメッセージは、True Colors Festivalの“True”の部分の意味を本質的に語ってくれていると思うんです。私たちの社会って、すぐに「あなたはこのカテゴリーね」って決めたりしますよね。ああ、私はここなんだから無理矢理押し込められて、でも本当の自分と少しずつズレが生じてきて、窮屈さや苦しさにつながっていく。あなたでいいんだよ、というのをフェスティバル

では“True”と表現しているのだと感じます。

ryuchell 多様性で大事なものは、強要しないことじゃないかな。人との関係では、なるほどあなたはそういう意見なのねって、まずは認める姿勢を見せること。自分自身に対しても、これは嫌だ！違う！ではなくて、嫌いなこともいつか好きになるかもしれないという目でものごとを見ること。相手にも自分にもどこまでやわらかくなれるかだと思うんです。

乙武 私はダイバーシティのバランスを考えるときに、“社会的にダイバーシティが実現されているか”ということと、“一人ひとりの人生が生きやすくなっているか”という2つの見方があると捉えています。でもいま、社会的なダイバーシティを実現することが独り歩きして目的化していないだろうか、と感じる場面がよくあって。本質的には“一人ひとりが生きやすくなるために、社会のダイバーシティが実現される”ことこそ大事だと思うんです。

無関心の壁を越えるエンターテインメントの力

乙武 ダイバーシティというメッセージをストレートに発信していくことも大事ですが、なかなか届きにくい層に対しては、True

Colors Festivalのようなエンターテインメントやパフォーマンスアートは大きな力になりますよね。そうして体感した結果、「いろんな人がまざり合うって新しい価値観を与えてくれるんだ」という気づきが生まれてくることに、意味があると思っています。

ryuchell イベントって当日楽しんでおしまいになりがちだけど、True Colors Festivalは当日がピークというよりは、じわじわ系フェスティバルですね。少しずつ影響の輪を広げていくのが似合っていると思います。

乙武 マイノリティの問題って基本的にどうでもよかったり、見てみぬふりができてしまったりするんですよね。そこにある価値にふれてもらうためには、あの手この手を使わないと。だからこそきっかりづくりが大事で、こうあるべきなんて制限をかけずに手を替え品を替え、関心を寄せてもらう試行錯誤を続けることが大切だと思います。

やわらかくなるのは自分。

あなただけのTrue Colorで世界とつながろう

ryuchell こういう活動をしていて申し訳ないんですけど、僕、世の中に期待していないんです（笑）でも、誰かが僕のことをロールモデルにしてくれて、こんな人がいてもいいんだってなんとなく生きるきっかけにしてくれる限り、僕はぜったいにこの仕事をやめません。僕の立場では世の中を変えられるとは今はまだ思っていないけれど、10年20年と時が経ってもその時の自分を表現していくことがいい流れをつくってって、いつしかそれが文化になると信じています。常識を少しずつかわいい形にしていくことはできるんじゃないかな。

乙武 障害を社会としてどう包摂したらいいのか・どう対応していけばいいのかという課題への意見が一番目立ってしまう存在が、20年変わらず私のままというのは、これはこれで多様性がないと思うんです。「乙武さんはそう言うけど私はこう思う」という声をもっと世の中に聞こえてくるように、若い人たちが発信しやすい土壌を開拓していくのがこれからの私の役目かな。男はこうあるべきとか、人の身体はこうあるべきとか、もっといえば障害者はこうあるべきとか。私はそれに反してメディアに出て自分の意見

を発信してきたので、生意気だって叩かれてもきました。でもね、次の世代の人が自分の意見を発信しやすいように、私が舞台上に立ち続けて叩かれておくのも大事かなって思っています。

ryuchell こんな時代に生きているからこそ、新しい自分の人生をつくりたい、新しい日本をつくりたいって思っているけど、じゃあどうしたら変わるわけ？という本音に揉まれて身動きがとれない人もいると思うんです。そんなときに違う世代の人が寄り添ってくれたり、自分たちの声や力を知りたいと後押ししてくれるのはうれしいし、もっと真剣に日本や自分たちの将来のことを考えようって、これからどんどんそういう動きになってくるといいなと思います。

乙武 子どものうちからいろんな人がいることを知り、それを否定せず誰もが自分らしさを大切に生きていける社会。その豊かさに気づききっかけを持ってもらいたいなと思います。ダイバーシティが大事なんだと押し付けるのではなくて、様々な切り口を通じて自ら道を拓いてもらえるように、私自身わくわくしながらこのプロジェクトでの取り組みを続けていきたいと思っています。

作家

True Colors Festival アンバサダー

乙武 洋匡 (おとたけひろただ)

1976年、東京都出身。先天性四肢欠損により、幼少時より電動車椅子にて生活。大学在学中に著した『五体不満足』が600万部を超すベストセラーに。海外でも翻訳される。大学卒業後はスポーツライターとして活躍した後、小学校教師として教育活動に尽力する。ニュース番組でMCを務めるなど、日本のダイバーシティ分野におけるオピニオンリーダーとして活動している。

モデル・タレント・アーティスト
True Colors Festival アンバサダー

ryuchell (りゅうちゅる)

1995年沖縄県生まれ。普通の男子の子像からはみ出している自分に生きづらさを感じていた学生時代を経て、原宿に上京。ありのままの自分を表現する姿に多くの共感を集め、全国区のタレントになる。

photo 鈴木真也

開催に寄せて

True Colors Festival は、
私たちの身近にある歌や音楽、ダンスなどを楽しみながら、
私たちの中の「同じ」や「違い」を感じる試みです。

ステージには「健常者」と呼ばれる歌手がいるかもしれません。
その隣には「障害者」と呼ばれるギタリストがいるかもしれません。
さらに隣には「LGBTQ」と呼ばれるダンサーがいるかもしれません。

テレビでよく見る音楽バンドとは違いますね。
それを観て、聴いて、あなたは何を感じるでしょう。
その答えを True Colors Festival は用意していません。

たぶん、一言で言えないもやもやした気持ち、
スッキリしない気持ちが残ると思います。
そうしたらもう一度、Festival のイベントに参加してみてください。

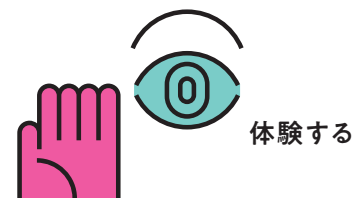
その時はもう、あなたは True Colors Festival の一員です。
いっしょに新しい経験をしてみませんか。

日本財団 常務理事 樺沢 一郎

1972年群馬県生まれ。True Colors Festival 総合プロデューサー。
Wake Forest University 卒業（米・ノースカロライナ州）。
NHKで記者として、沖縄、東京、バンコク、ワシントンで取材。
2017年から現職。
元プロキックボクサーという異色の経歴を持つ。



|| フェスティバルの特徴 ||



アーティストとの出会いや参加者同士
の交流の機会をつくり、パフォーマンス
の鑑賞から一歩踏み込んだ体験を提供
します。



トークイベントやワークショップ等を
展開することで、多様性に関する学び
の場をつくります。



障害のある人もない人も、誰もが楽しむ
ことのできる場づくりを目指します。

|| 収入の使途について ||

True Colors Festival は非営利の活動です。フェスティバル
期間中のチケット売上およびオフィシャルグッズ売上の全額
(委託販売手数料を除く) は、日本財団 DIVERSITY IN THE
ARTS を通じて、さまざまな障害に向き合いながら表現を追求
するアーティストへの支援や、障害、性、人種などへの偏見
から自由になるための表現を追求するアーティストがつながり
合い、研鑽し合う活動を中心に多様性をテーマとする各種
事業に使用いたします。

|| アクセシビリティについて ||

True Colors Festival では、誰もが参加しやすいフェスティバル
環境を目指し、さまざまな工夫や取組みを行っています。各
イベント会場では、手話通訳や字幕サービスなどの情報保障
のほか、多様な背景や個性のある人に居心地のよい会場づくり
を心がけます。また、公演情報や会場までのアクセス方法を
よりわかりやすく入手いただけるよう、ウェブサイトをはじめと
する事前情報のアクセシビリティを高めます。

True Colors Festival 事務局

〒101-0051

東京都千代田区神田神保町 1-6 神保町サンビルディング4階

日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS 内

TEL: 03-6455-3335 (平日 10:00 ~ 17:00)

FAX: 03-5577-6628

EMAIL: info@truecolorsfestival.com

発行: 日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS

クリエイティブディレクション: 森下ひろき (WR Inc.)

取材・編集: 安藤寛志、平原礼奈 (Mazecoze 研究所)

アートディレクション、デザイン: 柿沼智恵

印刷: 株式会社光真

発行日: 2022年4月21日

Supported by



**THE NIPPON
FOUNDATION**